



【祝福される幸いな家庭への十戒⑨: 真実を語る家庭】

説教者: 鄭南哲牧師

聖書: 出エジプト20章16節・使徒の働き5章1-11節/暗唱聖句:エペソ人への手紙4:25(聖書:新改訳2017版)

愛する信仰の家族のみなさん変わらずコロナと猛暑の日々が続いた一週間も変わりなく、お元気でしたか。子ども、学生たちは始まった学校の生活はどうでしたか。今日は8月の最後の主日朝礼拝の時間です。8月中にもコロナと暑い日々の中、子供たちの夏休み中守られ、無事学校生活が始まっていることから初め、全家族がここまで守られ来られた主の御守りと導きに共に感謝しましょう。同時に、今週明後日から始まる9月中にも、引き続き主の御守りとさらなる主の御助けを心からお祈り申し上げます。

みなさんは自分がどちらに当たると思いますか。一番、私は飯を食べるように普通頻繁に嘘をついている。二番、私はときどき嘘をついているほうだ。三番、私はほぼ嘘つきはしない。しかしやむをえない場合仕方なくする場合もある。四番、私は今まで決してうそをついたことはない。みなさんはこの四つの中、どちらの方でしょうか。

今日は祝福される幸いな家庭への十戒の第九回目であります。出エジプトの20章16節の内容です。「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」の御言葉をもってみなさんと一緒に考えたいと思います。この戒めを我々の言い方で言い換えると“あなたがたはだれに対しても嘘ついてはいけない!”という意味になります。神様は我々にとっても明確に神の前で真実を語り、全ての人々に愛を持って真実を尊重し、言いなさいと仰せられています。

するといったなぜ我々がクリスチャンとして偽りのかわりに真実を言わなければならないのでしょうか。

<① 変わらない真理であり、真実な神様>

我々が信じている神様はどんなお方でしょうか。聖書には三位一体の神、つまり、創造主なる父なる神、御子イエスキリスト、御霊なる聖霊の神についてこう記されています。神様は代々に変わりなく、真実な神であられ、聖なる神であられると書かれています。ですから、神様は偽りを忌み嫌われます。聖書にはこう書かれています。

「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことは出来ません。」(ヨハネの福音書14:6)。神ご自身が真理そのものです。そして、ヨハネの手紙第一1章9-10節には「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちがすべての不義(悪)からきよめてくださいます。10もし、罪を犯したことがないと言うなら、私たちは神を偽り者とする事になり、わたしたちのうちに神のことはありません。」

ここで神様は真実な方だと表されています。神様は今日の御言葉だけではなく旧約聖書から新約聖書に至るまで、約220箇所も真理の神様がどれだけ偽りを忌み嫌われるのかよく記されています。

「あなたは偽りを言う者どもを滅ぼされます。主は人の血を流す者や欺く者どもを忌み嫌われます。」(詩篇5:6)と聖書は言っています。

今日の本文の旧約聖書レビ記19章11-12節の御言葉を我々はいつも忘れてはいけません。

「盗んではならない。欺いてはならない。互いに偽ってはならない。12あなたがたは、わたしの名によって、偽って誓ってはならない。あなたの神の御名を汚してはならない。わたしは主である。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!なぜ、私たちは偽りをやめて真実をかたる者にならなければいけないのでしょうか。その理由は単純であり、明確です。我々が信じ、従っている神様は偽りを忌み嫌われる真実なお方だからです。ヨハネの福音書8章45節でイエスキリストは“わたしは真理を語る”と宣言されました。私たちもそのイエス様を信じ、従おうとする弟子であるなら、なおさらいつも真実を話して生きるのは当然ではないでしょうか。イエス様はつづけてヨハネの福音書8章47節で「神から出た者は、神のことに聞き従います。」と言われました。どんな意味ですか。我々が真理の神に属した者である、一番大切な証拠は神様の真理の言葉を愛し、聞いて、信じて、神と人の前で真実に生きる者である事を教えて下さっています。

みなさんもよくご存知のように使徒の働き5章1節-11節では初代教会のある特別な出来事について教えて下さっています。主の教会で偽りを話したアナニアとサツピラという夫婦が神から罰を受け、その場で死なれてしまう出来事が詳しく記されているのです。この夫

婦は主の教会のため、苦しんで助けが必要な人々のため、自分たちの所有物を売って神に捧げようとした素晴らしい信仰の動機を持っていたように見えます。ところが、実際自分の所有物が多分土地だったと思います。しかし、喜んで売ってささげようとするうちに、偽りの誘惑に陥いてしまいます。つまり、自分たちの土地を売ってから、お金を手に入れたら急に惜しくなったのか、意外と売って見たら、思ったより大金だったのか結局売った全部のものではなく、夫婦たちは意図的に、事前にまるで自分たちの全部をささげているかのように言おうと夫婦で話をあわせ、そのようにだまして話しました。そして、一部分を持って、主の教会の使徒ペテロの前に来て、全部を捧げているように嘘をつきます。神の御霊がお二人のうそをついていることをペテロに教えて下さり、アナニア夫婦はその場で亡くなられる神の厳しい罰を受けてしまったという内容が記されています。

その中5章3-4節を一度読んで見ましょう。「すると、ペテロは言った。「アナニア、なぜあなたはサタンに心を奪われて、聖霊を欺き、地所(じしょ)の代金の一部を自分のために取っておいたのか。4売らないでおけば、それはもともとあなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったではないか。どうして、このようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」今日アナニアとサツピラ夫婦は単なる人を欺いたのではなく、聖霊の神を欺いた事だと指摘されているのです。教会の前で、ただ使徒ペテロと教会の人たちをだけを欺いたのではなく、神を欺いたのです。つまり、神様をだまそうとし、神に嘘をつきました！聖書はキリストの御体なる主の教会が建てられるいくうちに、このような偽りは神の前で深刻な罪に当たることを教えて下さっています。なぜでしたか。主の教会の中で、人をだまそうとする事は、結局神をだまそうとすることになるからです！

“あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ！”これはこの出来事の神の結論であるわけです。

神は変わらない真理のお方であり、きよいお方です。ですから神様は偽りを忌み嫌われます！

私たちは神様を欺くことはできません。人をだまし、欺くことはできたとしても、神様をどうやって欺けるのでしょうか。すべてのことを見ておられ、御存知の神様を私たちのおろかな頭(あたま)で欺けようとする自体がまさにおろかではないでしょうか。

使徒の働き5章のアナニア夫婦の出来事を通して、キリストを信じる全ての者は、人の前で偽りを言う事はいつも神の前で偽りを言う事だと覚えなければなりません。

もし私たちがまことに真実な神様の子供であるなら、その神様の子供として真実を愛し、真実を語る者にならなければなりません。

人をだます、偽る、嘘をつくこのような悪い罪の誘惑と妥協しないでいつも神と人の前で隠すところなく、恥ずかしいところがないように警戒しつつ、真理であり、真実なる神の御言葉を愛することにより、いつも真実を語る我々になりましょう。

<② 偽りの根源-サタンと悪魔ども！>

愛するみなさん、そしたら、いったいこの偽りの根源はどこからでしょうか。どこから偽りは始まったと思いますか。

先ほど、使徒の働き5章3節をもう一度見て見ましょう。

[アナニア。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺き、

結局、その夫婦が嘘をついてしまった原因について、“サタンに心を奪われた”からだと教えて下さっています。

彼らの考えと心はサタンに奪われて嘘をついてしまいました。きっとサタンはこのような思いを彼らに入れたかも知れません。‘あなたたちはすごいよ。神様にこれだけ区別してささげるのもすばらしいのではないか。どうせ神様にささげることだから、最初言われたように全部じゃなくても、とにかく捧げることだから、別に嘘でもないよ。だれが分かるだろう。土地の売った代金全部を捧げたように見せるだけでも結局、素晴らしい証しとなり、神に栄光を帰することになるんじゃない。それによってあなたたちはみんなにすごい信仰の人物と証人になれるぜ。そしたら、次第に教会の長老にもなるかも知れないよ。あなたたちも使徒たちのようにすばらしい信仰をもった献身者だと認められるだろう！’

みなさん、悪魔はいつも真理なる神様を対敵し、真実な神の御言葉をそむき、逆らうように、たくらみます。

旧約聖書の中イザヤ書14章12-14節によると、サタンは本来御使いでしたが、自分の高慢によって神様のようになろうとして結局墮落してしまいました。その後、神にいつも敵対し、実際この世を支配しているように見えますが、やがてその最後を迎えるでしょう。

サタンとその下に従うものである汚れた悪霊たちがやることは唯一なる真理の神の存在を人々が分からないように、人々をだまし、惑わし、唯一の真の神の存在じゃなく、本当の神はあちこち色々な形としてたくさん存在しているかのように、必死に偽りの思想を持って妨げています。聖書は真理の神の御言葉じゃなく、ただ普通の人によって書かれた小説の物語かのように、いろんなベストセラーの中で良い本の一冊かのように、人を欺き惑わしているのではありませんか。

さまざまな哲学といろんな思想で世をまどわし、自殺、殺人、姦淫、淫乱な行為、強盗、詐欺(さぎ)、暴力、嘘つき、麻薬、賭博(とばく)、偶像崇拜、占い、ニューエイジ思想などあらゆる分野に浸透して人たちを惑わしているのがサタンのひたすらたくらみであり、サタンのわざであります。それによって結局、神の真実から離れさせ、神の真理を信じられないように偽っています！

そして、サタンは神様が肉体になられてこの地に来られ、十字架の上で血を流されることによる神の御子イエスキリストの罪赦し、救いの御わざを成し遂げたキリストのあがないが、ただ世の一つの宗教であり、ある偉い人の業ぐらいかのように、必死に人々をごまかし、神を冒瀆(ぼうとく)しているではありませんか。

それだけではなく、イエスキリストを信じているクリスチャンたちと救われたクリスチャンたちの共同体である教会が、お互いに一つとなつて愛し合えないように、互いに信頼できないように、分裂させ、はなればなれとさせようとし、小さな嘘をつくことから、人をだますことをやるんじく思わせながら、誘惑していいます。なので、聖書ではサタンは偽りの父だとも指摘して下さいます。

イエス様はヨハネの福音書8章でこの偽りの根源がだれなのか、どこからなのか明確に教えて下さっています。偽りの根源は悪魔だと言われました。ヨハネの福音書8章44節です。イエス様は当時偽善的で、二重的な宗教生活を諦めず熱心にながらイエスキリストを受け入れず敵対していたパリサイ人たちや不信仰のユダヤ人たちに向かってこう言われました。

「あなたがたは、悪魔である父から出た者であつて、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本姓から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。」

イエス様は悪魔が偽りの父であり、偽りの源だと教えて下さっています。イエス様はサタン、つまり悪魔が人類歴史の初めから偽りを話したと言われました。覚えていますか。悪魔の人類歴史の始めの嘘つきは何でしたか。神様は始めての人であつたアダムに「善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」(創世記2:17)と創造主の神は仰せられました。

しかし、蛇の形にして人に近づいて来た悪魔は神の御言葉に対して何と言いますか。創世記3章4節を見て見ましょう。

「あなたがたは決して死にません。」。神様は「必ず死ぬ」と言われましたが、サタンは「決して死なない」と言いました。

悪魔が偽りを言ったのです。アダムの後、全ての人は死んでいるではありませんか。悪魔が始めの人に言った始めのうそつきはあなたは決して死なない、神のようになれるという事でした。しかし、とても残念な事に今日の多くの人々は神様の御言葉を信じるより、サタンの偽りの方をもっと信じ、真似をし、従おうとする傾向があるように見えます。状況に応じて偽りを言い、他人を上手にだますのがまるでその人の優れた能力、頭が賢い人かのように、えらそうに勘違いしている部分があるのではありませんか。

しかし、聖書の厳重な証言を覚えてください。我々が偽りを言うたびに、その偽りの父である悪魔に利用されている事となり、まるで悪魔の手下人(げしゅにん)のように、結局サタンが願われているように実行する役割を果たすことになるかと教えて下さっています。偽りのサタンと悪魔がみなさん自身の心と言葉のうちに働ける機会を与えないようにいつも警戒し、気をつけましょう。

<③偽りは自分だけでなく、他人にも悪影響与え、大切な関係を破壊する。>

今日の第九番目の戒めである「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」と言う文字どおりに直訳すると、「あなたの隣人に対して偽りに反応したり、もしくは偽りに答えてはいけません。」になります。ここで「反応する、応答する」と言う単語はヘブル語で「アナ(anah)」という動詞ですが、「圧制、苦しませる、恥をかける、軽蔑する」という意味としてでもよく使われる言葉であります。

ですから、「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」十戒の中この第9の戒めは「あなたの隣人に対して、偽りの反応をすることで、あなたの隣人を苦しませてはならない。恥をかけてはいけません。」という意味で理解されます。

そして我々が注目すべき事は、第九番目の戒めには隣人が含まれていることです。つまり、我々が偽りを言う時、自身だけではなく、その偽りの最大の犠牲となり、悪影響を及ぼしてしまう対象が隣人(家族、他人)であることを神様は指摘されました。ですから偽りを言うことはただ個人的に関わる問題だけではなく、家庭や教会の共同体と社会の大切な愛と信頼関係を壊してしまうきっかけとなることをこの戒めは教えています。考えてみれば、私たちが偽りを言う時、それは自分のためにとつて言うように見えますが、ある意味で他の人々には悪影響を与えることになることはあまり考えない傾向があります。まず、偽りの内容を聞くと、すくなくともそれを聞いた人が正しく考えること、選択、感情、判断力が正しく機能できず、偏ってしまう時があるのではないのでしょうか。

みなさんは今まで、だれかに対して、本人に確かめずに、だれから聞いたからと言って事実じゃない話をだれかにしたことはないでしょうか。反対に、今までみなさんに対して事実でもないのに、自分に確かめてもないのに、勝手に事実じゃない話を聞いたり、言われた時はなかったでしょうか。みなさんはどんな反応をしていましたか。信頼した人への失望や裏切り、とても辛い思い、深い傷に感じたではないでしょうか。その話が事実かどうか慎重に確認せずに、だれかが言われた通り、だれかにかかるんじく伝えたことはありませんか。ですから、神様を信じる共同体の中では偽りを話すことは絶対に禁じられるべきです。なぜなら、**偽りは、偽りを言う人のみならず、その偽りの対象になる人々に与える悪影響はあまりにも大きいですし、今までの大切な愛と信頼の関係を壊し、疑ったり、恨んだりしまうようにさせるからです。**

この理由で**旧約時代のイスラエルの律法では、嘘をついたり、人をだましたり、偽りを言うことについてとても厳しかったことが分かります。**例え、だれかを裁判する中で、ほかの人に対して偽りの証言が発覚されると、罪を犯した人が受けるべき刑罰を偽りの証言をした人がかわりに受けたそうです。ある場合はそれが死を意味し、ある場合は3-4倍の賠償を払わされました。罪を犯した本人でもないのに、偽りを証言したわけでそうされるのはちょっと厳しすぎではないかと思われるかも知れませんが、それほどイスラエルの共同体は偽りの言葉が物事を正しく判断することにおいて、そして全イスラエルの社会の関係を壊す罪となると判断していたからとても重いものとして表したと信じます。彼らは偽りによるおそろしい結果をよく理解していました。新、旧約聖書にも神様と人の前で偽りを言い、行ったため、深刻な結果を及ぼしてしまった事例がたくさんあります。

今日の9番目のこの戒めである「**あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。**」は、**私たち自分だけではなく、我々の大切な人とその関係を守るための神様の御心があったことを私たちは忘れてはいけません。**

先ほど、アナニアとサツピラ夫婦の出来事を振り返って見ると、正直にみなさん、こんにち教会に通いながらも嘘をついている人が一人、二人だけでしょうか。時には牧師である私も、役員や牧者たちでさえも、神様の御前で偽りを言った事は決してないと言えないでしょう。しかし、今日は使徒の働き5章のその夫婦のようにたしかに嘘をついたとしても神様はその場で裁かれません！もし今もただちに神の厳しい裁きが行われるなら、きっとここに残る人は何人いるでしょうか。ですからアナニアとサツピラの場合は地上主の教会が立てられたばかりの時、地上でこれから主の教会、主の信仰の共同体の群れがどうするべきであるが神が見せて下さった特別な見本だったと言えるでしょう。

ですから、今日を生きている私たちクリスチャンも、**神の教会、信仰の共同体は神の真理と真実、純潔(じゅんけつ)のもとにしっかり立たされ、愛を持って真実を語り、真実を行うときこそ、みなさんの家庭と全ての関係が祝福され、揺るがずに、幸いに保たれると信じます。そして、そのような生き様を保って生きる時に、我らの周りの人々に、神様の真実と真理の福音が力強く広がり、この世の光と塩の役割をはたすことができると信じます。**神様は偽りの姿で、神と教会を欺いたある夫婦を容赦なくあつかわれたことにより、**神の真理の正義と公義をあらわされました。**偽りが支配する共同体はすでに病気の状態です。そして偽りが支配している教会は共同体全体の腐敗が蔓延してだけです。

偽りは単純に自分の有益のためとか、私たちが苦境から逃れ自分を守るための悪気のない偽りではありません。偽りはいっしょにいる家族に、そして神の教会共同体に、隣人を苦しませ、圧制することになることを忘れてはいけません。**何かを誰かに話す前に、まず、事実を事実として知っているのかを確認しなければなりません。いつも一方的に片方だけの話を聞いてはいけません。そして、事実を話す人はその動機がその人を愛し、さらに立てさせるための目的であって、他人を苦しませる動機にならないように注意しなければなりません。**

みなさんの家庭にも、神様を信じる教会共同体にも一番大切なことはなんだと思いますか。それは真実です。夫婦も、家族も、教会も真実でない時、その関係はやぶれ、教会が混乱してしまいます。忘れないように注意しましょう。私たちが偽りに慣れてしまうといつの間にか人々は自分自身に向かって偽りを言い、その偽りを事実のように信じ込んでしまいます。後には自分すら偽りを事実のように信じ込み語り、同時にはほかの人の言葉に自分のように偽りがあるのではないかと不信とうたがってしまう人生になってしまいます。これが最悪の悲劇なのです。

結局、自分も信じることができず、ほかの人をも信頼できない人生、そうなると大切な人や関係は破れ失う人生の結末をつけてしまうことになるのではないのでしょうか。かならず、覚えましょう。偽りは自分の人生を破壊するのみならず、神様のきよい教会共同体を破壊するおそろしい罪になることを。ですから神様と人の前でいつも真実であるために努力し、真実な人だったと認められる私とみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。

<④ いつでも真実な者になる為に:人より、常に神に敏感になり、全知全能なる神の前での神を意識する信仰の姿勢が必要>

みなさん、こんにち論争になっている状況倫理(situation ethics)という言葉を知っていますか。つまり、状況に応じて偽りを言わざるを得ない状況があるのではないかとことです。一番の大きい問題はこのような論理をもって状況に従って、自分の偽りを自己合理化しながらの道を人々はしきりに作っておこうとすることです。“まるでそれほど重要でない悪(lesser evil)”があるようにと訳します。仕方がなかったと言います。今日の御言葉を準備しながら自分をふくめ、多くの人々が何の悩みもしないで、たやすく、うそをつくのになれてしまい、話していたのではないかと自分たちをさぐる必要を感じました。エペソ人への手紙4章25節ではこう命じられています。

「ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです。」

アメリカで16代目のとても真実な大統領と呼ばれたアブラハム・リンカンが言った有名な言葉があります。

“偽りは人々をしばらくの間、ごまかすことができるかも知れない。しかし永遠に私たちをごまかすことはできない。”

最後に、そしたら、我々が欺きの罪から克服したり、予防するために、どうすれば良いでしょうか。

それはさらに人より、神様に敏感となり、神様をいつも意識することです。大体の場合、私とみなさんがだれかを偽ったり、欺いたりする時はどんな時なのか考えてみましょう。偽る時は他の人を意識するからやってしまう場合が多かったのではないのでしょうか。人々は他の人たちに自分がどう思われるかを意識し、気をとられてしまうため、自分の体面や益が落ちるのではないかと不安になるために、人を欺いてしまう場合が多いのです。結局、アナニアとサツピラという夫婦も教会の使徒ペテロの前で、そして教会の人々に自分たちの信仰が偉そうに神様の御前ではなく、教会の人々にたくさんのことをささげたように見られたくて、自己献身を大げさに欺こうと思ひ、そのように行動してしまいました。もしかして彼らが人よりも、全てのご存じある神様に敏感となり、神様が今もすべて見ておられ、私の心、思いさえもすべてご存知の全知全能なる神様であること常に信じ覚えていたなら、そのような人へのうそは要らなかったと思います。「あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」(使徒の働き5:4) つまり、彼らは人を意識しながらも、神様は意識しなかったという証拠です。

ランドビルト大学というところで、数学を教えていたメディソン・セロットというみんなに尊敬されている敬虔なクリスチャン教授がいました。この方は学生たちに特別に試験の時にはかならずこのように言うてから始めたそうです。“みなさん、みなさんは今日試験ですよ。試験監督は二人です。みなさんは二人を意識しなければなりません。わたしメディソンとともに神様です。そして、みなさんは二つのテストをこの時間同時に受けているという事実を忘れないでください。一つは数学のテストで、もう一つは正直というテストです。みなさんは数学の試験より正直という試験にパスすることが人生の中でもっと大切であることをぜひ覚えてほしい。なぜなら正直な人生こそ、真実な人たちと出会い、繋がって、真実な関係を作り上げられる一番大切な力だからです。”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!今日のメッセージを終わらせたいと思います。

最近、私たちはどれだけ神様を意識しながら生活しているのでしょうか。一週間の生活を一度振り返ってみてください。8月中いかがでしたか。私たちはどれだけ神様を意識しながら生活しているのでしょうか。自分のプライドを、わずかな自分のあやまちを隠すため、そして自分を防御するためどれだけたくさんのウソをついて来ているのでしょうか。私たちのすべての偽りは神様よりただ人を意識した結果から生じたことを忘れないで下さい。私たちは神様の民であり、神の家族です。いつも神様をまず意識し、偽りと妥協しないで、いつわりを忌み嫌い、真理と真実を愛し、正直で勇敢に戦って行く私とみなさんになるように主イエスキリストの御名によってお祈りします。

最後に、使徒パウロをとおして与えられる神様の御言葉に耳をかたむけましょう。「あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味の効(き)いたものであるようにしなさい。そうすれば、一人ひとりにどのように答えたらよいか分かります。」(コロサイ人への手紙4:6)

神様はここでクリスチャンとして大切な二つの単語、親切と塩を強調します。私たちは積極的に他の人に親切な言葉づかいを強調します。しかし、消極的には腐敗していない言葉遣いを強調します。一番腐敗した言葉は偽りの言葉です。今日、神様がくださる第九番目の戒めを覚えながら、日々我々の言葉に塩をつけましょう。親切のある、真実な言葉を使い、隣人は私たちの口からでるイエス様の福音を信用し、我々は真実なキリストの証人となれるでしょう。今の時代とまわりの偽りのあまったるい誘惑にもまけないで、妥協しないで、ただキリストイエスの義と真理の上に堅く立てられていく神様の人となるクリスチャンプレイズチャーチとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈りいたします。我々の心とくちびるに恵みを注いでくださって、親切と塩味のきいたことばづかいによって偽りの多い今の時代に、神の恵みと愛によって、一層真実を語る家庭、神の真理を愛し、守り行全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますよう主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン!